

4 ②金融版デジタルサクセス

# 金融機関のデータドリブン経営への変革を実現

金融業界では、データの活用が重要な経営課題として認識されている。しかし、多くのお客様は「具体的なデータ活用のユースケースが見つけれない」、「DXを導入したいがどう進めれば良いかわからない」、「システム基盤は導入したが活用度合いが低い」等の課題を有している。金融版デジタルサクセスは、期待効果や進め方を具体化するコンサルティングから、実現する基盤の実装まで一気通貫で支援するサービスだ。

## NTTデータのデジタルサクセスへの取り組み

企業を取り巻く環境変化が激しい近年では、データが重要な企業資産となっている。データの活用力こそが企業の競争力に直結するといっても過言ではないだろう。事業活動の中でデータを活用しながら事実を適切・迅速にとらえ、将来を予測し、さまざまな業務を高度化・効率化させていくデータドリブン経営を実現することが企業の成功要因となると考えられる。

デジタルサクセスは、「お客様企業のデータドリブン経営への変革をサポート」するサービスとして、10年以上もの間、幅広い業種のお客様を支援してきた。本サービス Data & Intelligence を強みに SoI (System of Insight) やデザインを合わせて、DXの構想策定から効果創出まで End to End で支援する内容だ。

2012年にはビジネスアナリティクスや金融工学に強みを持つ会社の子会社化、2018年にはデータサイエンティスト要員を300名確保するなど、戦略的にデータ分析/活用の最先端にたち、サービスの質向上を図ってきた。また、Tableau や Informatica、

DataRobot などアセットに強みを持つパートナー企業との連携を進め、お客様への価値提供の最大化を目指してきた。

## 金融版デジタルサクセス

金融版デジタルサクセスとは、DXでトップライン向上、圧倒的業務効率化、リスクリソク等を実現するサービスだ。

その進め方は、小さく始めて大きく育てることが基本となる。いきなり全社展開やAI等最新技術の導入に飛びつくのではなく、優先度や影響範囲を想定した上で、効果を着実に見定めながら進めることが肝要だ。わたしたちのアセットである金



株式会社 NTT データ  
金融イノベーション本部  
グローバルカスタマーサクセス室  
コンサルアンドセールス統括部  
(左から) 部長 斎藤 丈氏  
主任 工藤 亜季子氏  
課長代理 太田 創氏

融版デジタルサクセスでは、5ステップで推進することとしており、最終的にグループ全体にその導入効果が波及することを想定している(図1)。

第1ステップは、「データ集積基盤の構築」。旧来のアーキテクチャ

「金融版デジタルサクセス」では、5つのステップでデータドリブン経営の実現します。

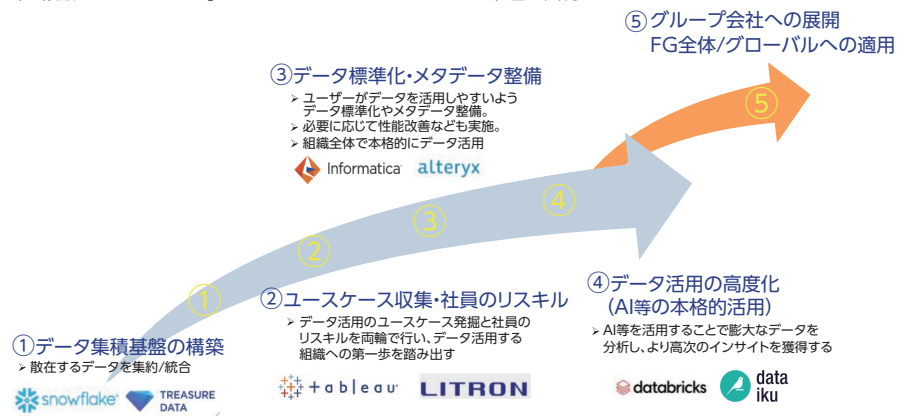


図1 「金融版デジタルサクセス」の5ステップ

で築かれた基盤は、変化の激しい現在において拡張性や柔軟性に欠ける場合があり、競争力を削ぐ原因になる。周辺の既存システムともシームレスに連携する基盤を構築することがポイントとなる。

第2ステップは、「ユースケース収集と社員のリスク」。当社のお客様は、ここでつまづくケースが多く、システム環境は整えたけれど使われないことや、具体的なユースケースがなくデータが蓄積しないといった相談を受ける。打ち手はいくつもあるが、ユーザー部門の巻き込みや、社員のDXへの理解とスキルの向上が鍵となる。

第3ステップは、「データ標準化・メタデータ整備」。データドリブンによる変革の効果を認識し、対象範囲を拡大する段階だ。データを活用するユーザーが増えることで、ガバナンス面や性能面での課題が現れることもある。複数部署横断でシームレスかつ遅滞なくデータ連携する仕組み、例えばデータ標準化やメタデータ整備などを行い、ユーザーがデータを利用しやすい環境を整えることになる。

第4ステップは、「データ活用の高度化」。より発展的なデータの使い方を検討する。営業データをリアルタイムで経営層も把握することや、AIを導入し新たな切り口をユーザーに提供していく。

第5ステップは、「グループ会社への展開」。業務によってはグループ会社と連携することもあるだろう。例えば、海外子会社を含めたグローバルでの資金戦略や、サプライチェーンの検討が挙げられる。

金融版デジタルサクセスでは、この5ステップを通じて、金融機関全体のデータドリブン経営を実現する。

また、「金融版」ならではの特徴として、3点が挙げられる。

- ①金融知識×データ活用ができる人財の提供
- ②金融機関向けダッシュボードのひな形
- ③業務要件整理からツールの実装まで一貫した支援

データ活用基盤は作ったものの、社内のデータ活用が進まないといった悩みを持つ金融機関のお客様は多い。金融機関デジタルサクセスは基盤構築後のユースケース収集やリスク、社内活用が進んできた際に検討する必要がある性能問題やデータの民主化対応など、お客様のフェーズに合わせてコンサルティングから実装まで一貫した支援が可能だ。

## Tier1の大手金融機関への支援実績

金融版デジタルサクセスが効果を発揮したのは大手金融機関様のデータ活用支援だ。どのような支援を行ったのか、2つの事例を紹介する。

### 事例1：全社レベルでのデータ活用の促進支援

全社レベルでのデータ活用推進を目的に、データ分析基盤を構築した。データ分析基盤とは、金融機関が扱うグループ内外の多様な種類・膨大な量のデータを一つの基盤に蓄積し、適切な制御の元で自在にデータを活用できる基盤を目指して作られたものだ。本件では、構築に留まらず、活用の支援も実施した。

金融版デジタルサクセスでは、この分析基盤が当初の狙い通り全社で活用されるものになるよう、3つの

施策を支援した。①BIツールの浸透による業務効率化、②営業の見える化によるトップライン向上、③人材育成によるデータ活用推進の3つである。これらの取り組みによりBIユーザーの増加や営業用のBIコンテンツ増加などが図られ、データドリブン経営の実現が進展している。今後は性能問題への対応や運営ルールの整備、AIを活用した高度なデータ活用、それらのグループ会社への展開など、データドリブン経営の実現に向けてお客様と共に更なる高みを目指していく。

### 事例2：ユーザー部門におけるDX戦略立案支援

過去数年、その部門独自にデジタルの取り組みを進めていたが、当初期待していたほどの大きな効果には繋がらないという課題をお持ちのお客様に対し、DX戦略のプランニングから支援を行った。まずはお客様が想定されている目指すべき姿とロードマップを策定し、これらの実現に必要な人財・組織の在り方まで具体化した。これによりDXの取り組みが絵にかいた餅で終わらず、永続的に継続・進化されていくようにプランニングすることができた。今後はこのプランを実行するフェーズに入る。引き続き支援し、確実に成果に繋がるよう努めていく。

## まとめ

金融版デジタルサクセスは、DXという手段をお客様の経営課題解決や“成果”へと昇華させるサービスである。今後もこれらのサービスを通じて、金融業界全体のデジタル化に貢献していく。